

日本人においては 2 型糖尿病患者へのアスピリンの一次予防効果は認められず

心臓血管病のリスクが高い 2 型糖尿病患者では、脳卒中や心筋梗塞などの心臓血管イベントの一次予防のために低用量アスピリンが用いられているが、その長期的な効果や安全性についてはまだ不確定のままである。以前に、日本人を対象に低用量アスピリンの動脈硬化性疾患に対する一次予防効果を検証したランダム化比較試験（JPAD 研究）において、4.4 年の追跡期間中にアスピリンの一次予防効果が認められなかった。本研究では、2008 年で終了した JPAD 研究の登録患者をさらに 2015 年まで追跡する観察研究を実施した（JPAD2 研究）。

中央値 10.3 年の観察期間中に低用量アスピリン療法（81mg または 100mg/日）の割り付けから逸脱した患者を除外した 2,160 人を対象に解析を行った。その結果、低用量アスピリン療法による心臓血管イベントの抑制効果は認められなかった（ハザード比 1.14）。年齢、性別、血糖コントロール状況、腎機能、喫煙習慣などを調整した多変量解析でも同様の結果が得られた（ハザード比 1.04）。消化管出血はアスピリン投与群で 2%、非投与群で 0.9%とアスピリン群で有意に高かった（ $P=0.03$ ）が、出血性脳卒中の発症率は両群間で差は認められなかった。

したがって、日本人においては、心臓血管リスクが高い 2 型糖尿病患者に対する低用量アスピリン療法は、心臓血管イベントの一次予防効果は認められず、消化管出血リスクを上昇させることが示された。

出典：Circulation. Published online Nov 15, 2016; pii: CIRCULATIONAHA. 116.025760